

2019年(R元年)

10月

No. 333

ひとつようじし

(ホームページアドレス) <http://hitoha-fukushi.com> (メールアドレス) honbu@hitoha-fukushi.com

(題写: 若田由美)



社会福祉法人 ひとは福祉会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

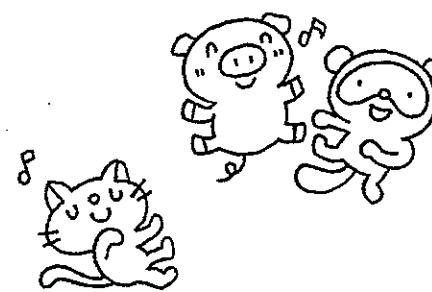
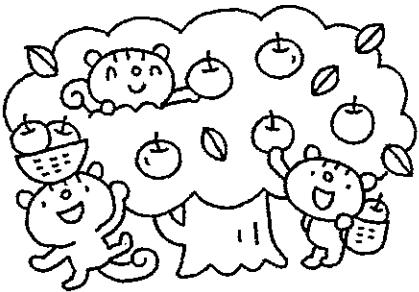
実りの秋を迎え、田んぼでは稲刈りが進んでいます。新米が美味しい食欲の秋、皆様いかがお過ごしてしょうか。

書き出しは「秋」ですが、今号は児童部部門くらわんでの夏休み期間の活動の一コマについて。児童部門では、放課後や長期休暇中も含めて、子ども達の成長を意図して生活体験に係る活動を行っています。夏休み中の調理活動では、去年より今年、前回より今回と調理が上手になっています。

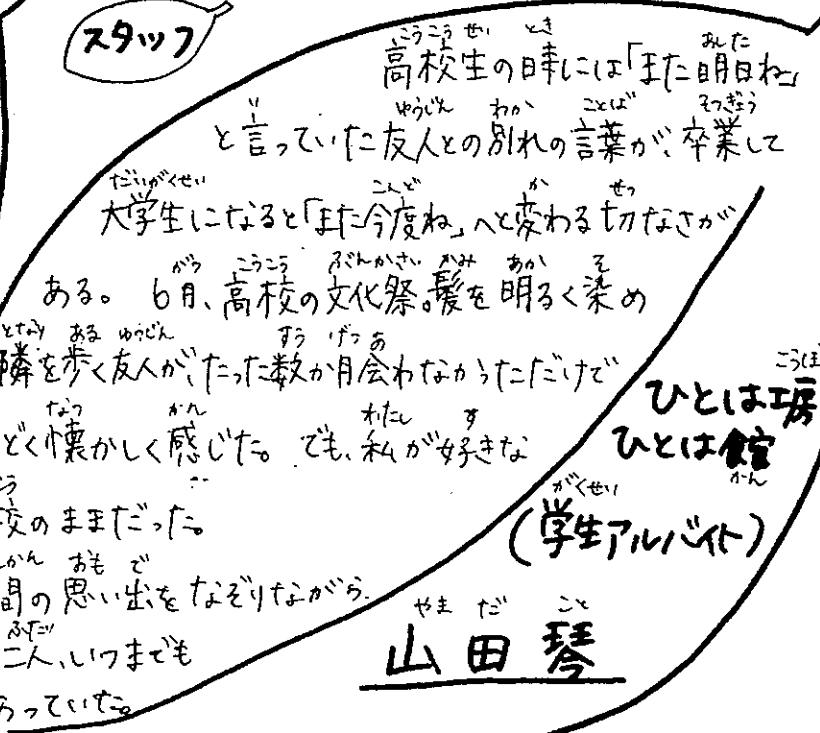
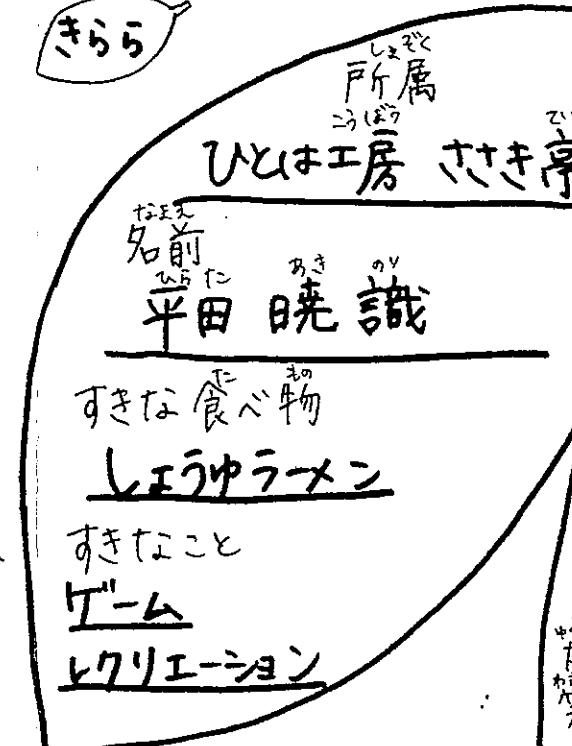
A君との会話の中で、「僕って1年生の頃、よく泣いていたよね」と、以前の自分自身を振り返る言葉が聞かれました。そして、調理活動を通して、私が「すごい上手になったよね」と声を掛けると「当たり前じゃん」と、自分で自身の成長や変化を実感しています。人はともすれば、自分以外の誰かと比較して自身のコンプレックスを自覚し、時には悩みの種にもなります。以前読んだ「心理学の類の本に『同じ比較するのならば過去の自分と比較して』と書いてあることを思い返しました。

A君は過去の自分と今を比較して「僕は、僕でいいんだ」と実感しているのだと思います。私達の活動が、子ども達の成長の実感につながるものとなるように、これからも意図した工夫をしていきたいと思います。

(児童部門 佐竹正亮)



あたらしい入ったひとはの仲間たち



ひとはまつりを終えました

9月7日、「ひとはまつり」が開かれた。前回も実行委員として参加はしていたが、「西日本豪雨」の影響で中止という悔しい結果に終わってしまった。その分「今年は絶対何とかして成功させてやる」という想いで準備も進めてきた。しかし、準備を進めていく中では、やはりどこかシンドく「ひとはまつりの廃止も良いんじゃないかな」という想いが頭をよぎることもある。

そんな時に、色々な面で特に支えてくれたのが「ひとはまつり」の実行委員長「谷川恵美さん」。自分には、この人の存在は本当に大きかった。谷川さん、ありがとうございました。そして、その他数多くの場面で支援を頂きました。ありがとうございました。 実行委員長 河野大輔

「Kさんと私」

今年の夏休み、中高生グループは人数が少なくて、Kさんと2人で活動することになりました。食事の準備等は小学校高学年の中学生達と一緒に行った。洗いものは、中高生グループが担ってて、毎日人数分のコップとおわんを洗っていた。グループに3人以上いれば一人一役だが、2人だと何役もしなければならない。

そんなある日、Kさんが「おやつを食べながら「高松さんは、拭いて片付け。私は、洗って洗濯します。」と言ってきた。給湯室で2人、それぞれの仕事を黙々と行った夏を振り返っている。

(ひとはほっこ 高松 悅子)

「あんちゃんすき…」

昼食後、のんびり過ごしている彼らの仲間に「ここにちは」と挨拶しながら、私は午後からの出勤です。手を振る人、ハイタッチで迎える人、一人一人違う。河野農史さんはすぐ近くまで来て、「ニヤリ」と首をかしげ、しきり目と目を合わせ、何か一言。そしてスッと離れるシャイな河野さん。

ある日、一緒に活動しているとき、ポツンと「あんちゃんすき…」と。レトロな「あんちゃん」ですが、河野さんの口から出ると優しくて本当に「あんちゃん」が好きなんだなと。(思ひ立って気分になりました) (ひとは作業所 今井志保子)

「後輩に刺激されて」

饭店舗での営業をスタートさせたひとは館たかに産直市店。勝手が違う場所での店番でみんなも少し緊張気味。

看板娘の一人、服部さんと一緒にお店に入った時のこと。仕事をお願いすると「はーい!」ととても気持ち良い返事が返ってきてました。「めちゃくちゃ良い返事じゃね」と言うと、「(後輩の)中島さんが頑張ってるから、私も頑張ろうと思って…」とテレ顔。実は私が入る前にスタッフに「笑顔と返事とまじめ行動でがんばろ!」と言われ、繰り返し唱えたから「出田さん、笑顔になってくれるかな」とつぶやいていたそうです。

来春、たかに産直市店は「道の駅店」としてオープンします。「縄文あいす」の看板娘たちの素敵な笑顔に磨きがかかる事を期待しています。 (ひとは工房 出田広志)

「お気に入りはなんですか?」

昼休憩、何かお気に入りはないかなど探し物をしている外輪さんの姿を見て、昨年のきらら一泊旅行でのことを思い出ししまくる途中に寄ったサービスエリアで木のしゃもじを購入した外輪さん。そこには「幸福」の文字が。「合格、必勝などがある中で、幸福を運ぶとは…素晴らしい!」と大島さんが大絶賛。

今年もきらら旅行の準備が進んでいます。今年はどんなお気に入りか見つかるのでしょうか。

(事務局 竹内宏美)

「やりがいを感じること」

今年度より、かきがら作業のかわりにもみがらや苗箱洗浄の作業をすることになりました。单调だった作業から体を動かさず作業に変わると、特に変化を感じられたのは藤原さんです。活き活きと働く姿や楽しそうな笑顔を見ると、「やりがいを感じているんだな」と表情で伝わります。自分はアグリ2年目になります。1年経過すると、どうしてこうするのか「当たり前」という固定観念にとらわれがちにならないで、常に頭を柔らかくして、彼らの仲間のできる力を発見していくといいと思います。

(就労センターあづみ 常川宏)



編

集

後

記

大学4年生のころに自動二輪の免許を取得し、今は中型バイクを持っている。気候のいい時期は休日に思い立ってツーリングに出かけることもあるが、最近では「思い立つ」こともめっきり減り、馬主輪場に眠っていることが多くなってしまった。そんな昨年の秋の終わりのこと。久しぶりにバイクを出そうと思ったら、ついにエンジンがかからなくなってしまった。バッテリーを充電してもダメ。放置していくので助かってしまった。お手上げ状態のまま冬に突入。年が明け、季節は夏になり…いいかげん何とかなければ、と修理に出し、8ヶ月ぶりに息を吹き返して戻ってきた。今年こそはマメに乗ってあげようと思ふ。今年の夏だった。(順調に乗っています)(白井みこ)